

MOTOR SPORTS

# CLUB

# B

RALLY / GYMKHANA / DIRT TRIAL&more... "EXCITING" MOTOR SPORTS MAGAZINE

**VOL.36**

**FREE  
無料**

Bライセンス  
モータースポーツPR  
フリーペーパー



お手軽モータースポーツ、オートテストを1日疑似体験!  
Bライセンス取得ガイド&全国Bライモータースポーツ競技場ガイド

2021年JAF全日本ラリー／ジムカーナ／ダートトライアル選手権序盤戦ダイジェスト  
公認競技のオススメ ベース車両選び～JAF登録車両ガイド～

## NEWマシンが飛びっきりの速さを見せ始めた!



安心感で選ぶなら  
ウェット「a」

雨に強いウェット性能「a」ラインアップ



**ADVAN Sport**  
V105



**ADVAN dB**  
V552



**ADVAN FLEVA**  
V701



**BluEarth-GT**  
AE51



**BluEarth-1**  
EF20



**BluEarth-RV-02**



**BluEarth-XT**  
AE61

※V105/V552には一部「a」でないサイズがございます。詳しくはカタログ、WEBをご覧ください。



2021年JAF全日本ラリー選手権  
第3戦 ツール・ド・九州 2021 in 唐津  
第5戦 RALLY丹後2021



# 2021年 JAF全日本ラリー ジムカーナ ダートトライアル選手権

序盤戦ダイジェスト



2021年JAF全日本ジムカーナ選手権  
第1戦 もてぎスーパースラローム2021  
第3戦 広島トヨペットカップジムカーナIN TAKATA

2021年JAF全日本ダートトライアル選手権  
第2戦 RASCAL SPRING TRIAL IN KYUSHU  
第3戦 DIRT-TRIAL in NASU





# JRC

## シュコダ・ファビアR5が全日本ラリーJN1を席卷。福永修が2021シリーズ2戦目の唐津から2連勝！

2021年 JAF 全日本ラリー選手権第3戦 ツール・ド・九州 2021 in 唐津 開催日：2021年4月9～11日 開催場所：佐賀県内  
 2021年 JAF 全日本ラリー選手権第5戦 RALLY 丹後 2021 開催日：2021年5月21～23日 開催場所：京都府内

2月、群馬県でのスノーラリーで開幕する予定だった今年の全日本ラリー選手権。残念ながら新型コロナウイ

ルス感染症拡大のため、中止を余儀なくされたことで、3月に組まれていた第2戦新城ラリーが事実上の開幕戦として

開催された。

感染症拡大の第4波はその後なかなか収束の気配を見せなかったが、続く4月の第3戦ツール・ド・九州in唐津、そして5月開催の第5戦ラリー丹後は、感染防止策を徹底した上で、無観客での開催の運びとなった。しかし第4戦久万

高原ラリーは開催延期を決定。10月末にシリーズの最終戦として行われることになっている。

全日本ラリーの最高峰クラスであるJN1クラスは、新城では、スバルWRX STIを駆った新井敏弘が優勝、タイトル奪回に向けて好スタートを切った。しか



第3戦唐津（シリーズ2戦目）／1. JN1はR5勢が1-2フィニッシュを飾るとい歴史的な一戦となった。2. 86/BRZ勢がしのぎを削るJN3は、若手注目株の大竹直生／藤田めぐみ組が唐津で全日本初優勝を達成。3. JN5は新城でヘイキ・コバライネンを脅かすスピードを見せたレクサスRC Fの石井宏尚／竹下紀子組が、今季初優勝を飾った。4. JN4は新城を制した西川真太郎／本橋貴司組が唐津でも圧勝を飾った。5. JN5は絶対王者、天野智之／井上裕紀子組が唐津で今季初優勝を達成。6. JN6は、今季、全日本デビューの吉原將大／佐野元秀組が唐津を制して開幕2連勝。





第5戦丹後（シリーズ3戦目）／7. JN3は竹内源樹／木村悟士組のBRZが優勝、ランキングも3番手に上げてきた。8. JN4は2連勝の西川真太郎のチームメイト、須藤浩志／新井正和組がLEG1から大きくリード。そのまま逃げ切った。9. 10. JN2は新城を制したヘイキ・コバライン／北川紗衣組が2番手に1分以上の大差をつけて2勝目を飾った。11. JN1では勝田範彦／木村 裕介組（13.）がシュコダ勢に割って入る2位を獲得。12. 柳澤宏至／保井隆宏組は唐津から順位を落とすも、連続表彰台をゲットした。14. 2連勝を飾った福永。グラベルでの速さが注目される。15. 16. 開幕戦からヤリスを乗りこなしてきた内藤学武／小藤桂一組がそのアドバンテージを活かしてラリーの主導権を握り、3戦目で待望のJN5クラス初優勝。17. 18. JN6は吉原将大／佐野元秀組が丹後も制して、ただ一台、開幕3連勝を達成した。



し、誰もが目を見張ったのは、ステージによっては群を抜くスピードを見せた、福永修と柳澤宏至がドライブしたFIA R5車両である2台のシュコダ・ファビアR5だった。

シリーズ2戦目の開催となった唐津。土曜のLEG1で注目のファビア勢を抑えてトップで折り返したのは今回からADVANカラーのトヨタGRヤリスをドライブすることになった奴田原文雄だった。しかし2番手には、1.4秒遅れで福永がつけ、僅か0.1秒差で勝田範彦が

追うという展開だ。勝田範彦は前戦新城でGRヤリスのデビューを飾ったものの、マシントラブルで早々にリタイア。

苦杯を舐める形となったが、奴田原とともに、GRヤリスの高いポテンシャルをいきなり見せつけた。

しかし日曜のLEG2ではファビア勢が攻勢に出る。この日に設定されたSSは6本。その内、福永が3本、柳澤が2本のベストタイムを奪取。奴田原を逆転し

た福永が優勝し、柳澤も0.1秒の僅差ながら奴田原を抑えて2位に上がり、ファビア勢が1-2フィニッシュを飾るという歴史的な勝利を飾った。

敗れたとは言え、デビュー間もないGRヤリスのスピードにも注目が集まる中、開催されたシリーズ3戦目となる丹後。前回の奴田原に代わって、その速さを見せつけたのは勝田範彦だった。勝田範彦はSS1、SS2とベストを連取し、LEG1最初のセクションを終えてトップに立った。しかし同じSSを再び回る2ループ目に入ったセクション2では、これまでGRヤリスでは未経験だった雨に遭遇した勝田範彦はペースダウン。まさに水を得た魚のように本来のスピード

を取り戻した福永が代わって首位に立ち、LEG1を折り返した。

LEG2で挽回を期した勝田範彦だったが、この日の福永は隙を見せず、逆にリードを広げていく。終わってみれば勝田範彦を30秒も引き離してゴールし、2連勝。ポイントランキングでも勝田範彦、奴田原のGRヤリスや、この2戦はトップ争いに絡めなかったWRX STIの新井敏弘らの国産車勢に大きく水をかけてトップに立った。

唐津同様、丹後もLEG2で追い上げを見せた柳澤は3位でゴール。ランキングも単独2番手を確保し、地元となる次戦モンレーで、柳澤はファビアでの初勝利を狙うことになる。

2021年JAF全日本ラリー選手権カレンダー（5月末現在の予定）

大会	開催日	競技会名称	開催場所	舗装/積雪
第1戦	2/4~2/7	Rally of Tsumagoi (開催中止)	群馬(450km)	舗装/積雪
第2戦	3/19~3/21	新城ラリー2021 Supported by AICELLO	愛知(400km)	舗装
第3戦	4/9~4/11	ツールド・九州 2021 in 唐津	佐賀(350km)	舗装
第5戦	5/21~5/23	RALLY丹後2021	京都(300km)	舗装
第6戦	6/11~6/13	MONTRE 2021	群馬(450km)	舗装
第7戦	7/2~7/4	2021ARK ラリー・カムイ	北海道(500km)	未舗装
第8戦	8/20~8/22	横手ラリー2021	秋田(350km)	未舗装
第9戦	9/11~9/12	RALLY HOKKAIDO	北海道(1000km)	未舗装
第10戦	10/15~10/17	第48回M.C.S.C.ラリー・ハイランドマスターズ2021	岐阜(400km)	舗装
第4戦	10/30~10/31	久万高原ラリー	愛媛(250km)	舗装

※開催場所（ ）内の数字はラリーのトータル距離。

**今**年は全8戦が組まれる全日本ジムカーナ選手権は5月終了時点で2戦を消化した形となっている。これは、4月に福島県のエビスサーキット西コースで開催予定だった第2戦が延期され、10月下旬開催として再編成されたことによるもの。

延期の理由は、2月13日に発生した最大震度6強の福島県沖地震により、同サーキットが土砂災害に見舞われるなど、多大な被害を受けたため。本来、最終戦に設定された鈴鹿サーキット国際南コースの一戦の3週間後となる10月23～24日の開催が予定されている。6月には第3戦、第4戦が組まれており、コロナ禍の影響を受けなければ、本格的な夏を前にシリーズは折り返す形になる。

3月28日に栃木県のツインリンクもてぎ南コースで行われた開幕戦で、まず大きな注目を集めたのが、昨年までPN1クラスと呼ばれていた新生JG8クラスだった。マツダの現行ロードスターのワンメイク状態となっているJG8クラスは、今年有力ドライバーの参戦が相次ぎ、参加した15名のうち、過半の8名が全日本チャンピオン経験者という、ハイレベルな戦いの場へと一変したのだ。

その中でも特に注目を集めたのが昨年までBRZでPN3クラスを戦っていた川北忠のロードスターによる参戦だ。一貫してFR車に乗り続けてきた川北は自他ともに認める全日本ジムカーナを代表するFRマイスター。過去2度、チャンピオンを手にしたマツダ車を再びドライブする。その川北は注目の開幕戦、第1ヒートから、それまでの暫定ベストタイムを塗り替える走りを見せて、ラストゼッケンの昨年のチャンピオン、斉藤邦夫のトライを待った。

この日のもてぎは、降水確率が高く、いつ雨が降り出してもおかしくないというコンディション。多くのドライバーは1本目勝負と踏んで、ミスが許されない中で限界のトライを見せたが、斉藤が意地を見せて川北のタイムを0.5秒凌いで逆転。その後、予報通り、雨が降り出したことで第2ヒートは各選手がタイムアップを果たせず、結果的にこれが優勝タイムとなった。

川北は同じく雨となった第3戦TSタカタサーキットで挽回を期したが、今度は昨年、斉藤と熾烈なチャンピオン争いを演じた箕輪雄介に0.063秒及ばず再び2位。しかしこの大会、斉藤が8位と

2021年JAF全日本ジムカーナ選手権カレンダー（5月末現在の予定）

大会	開催日	競技会名称	開催場所
第1戦	3月28日	もてぎスーパースラローム2021	ツインリンクもてぎ 南コース(栃木県)
第3戦	5月15～16日	広島トヨペットカップジムカーナ IN TAKATA	TSタカタサーキット(広島県)
第4戦	6月5～6日	ALL JAPAN GYMKHANA in 名阪まほろば決戦	名阪スポーツランド Cコース(奈良県)
第5戦	6月26～27日	北海道オールジャパンジムカーナ	オートスポーツランド スナガワ ジムカーナコース(北海道)
第6戦	7月17～18日	スーパースラローム IN 久万高原	ハイランドパークみかわ ジムカーナコース(愛媛県)
第7戦	9月11～12日	オールジャパンジムカーナ in 九州	スピードパーク恋の浦(福岡県)
第8戦	10月2～3日	NRC鈴鹿BIGジムカーナ	鈴鹿サーキット 国際南コース(三重県)
第2戦	10月23～24日	オールジャパンジムカーナ イン エビス	エビスサーキット 西コース(福島県)
JAF CUP	11月6～7日	2021年JAFカップオールジャパンジムカーナ	イオックスアローザスポーツランド(富山県)

低迷したことで、川北がポイントランキング首位に立った。

また今年全日本ジムカーナは改造車部門のクラス分けに大きな変更があった。昨年までのSCクラスとSA/SAXクラスが駆動方式別に再編され、4WD車は新JG1クラス、2WD車は同じく新たに作られたJG2クラスで混走することになった。SCクラスはナンバーを切った改造車が対象で、迎え打つのは一定の範囲で改造が許されるナンバー付き車両のSA車両と、がSA車両と改造規定は同一でナンバーを切ったSAX車両だ。

車両の性能だけを比較すれば当然、改造範囲がより広いSC車両が上だが、それが勝敗に直結するとは限らないのがジムカーナという競技の特徴でもある。例えばマシンのパワーで劣ったとして

も、優れたパイロンワークが勝利を運び込むことがある超テクニカルな要素の高いモータースポーツなのだ。

大会のトリを飾るJG1クラスは、SA車両を駆る津川信次と菱井将文、SC車両で臨む西原正樹という、これまで2リッターターボ4WDを扱ってきた全日本ジムカーナを代表するスタードライバー達による、“贅沢過ぎる”対決に注目が集まった。

第1戦もてぎ南では津川が菱井を0.077秒凌いでまず1勝。西原はシフトミスが響き、3位にとどまる。続く第3戦TSタカタも津川が快勝。西原はこの一戦では、菱井を抑えて2位を獲得したが、2戦続けてSA車両の勝利を許す形となった。

これまでもライバルに先行して新車



## 全日本ジムカーナは3月最終週にシリーズ開幕。激戦必至の改造車クラスは早くもホットバトルが勃発!

2021年JAF全日本ジムカーナ選手権第1戦 もてぎスーパースラローム2021  
開催日：2021年3月28日 開催場所：ツインリンクもてぎ南コース(栃木県茂木町)

2021年JAF全日本ジムカーナ選手権第3戦 広島トヨペットカップジムカーナ IN TAKATA  
開催日：2021年5月15～16日 開催場所：TSタカタサーキット(広島県安芸高田市)

全日本ジムカーナのトップドライバー達が三つ巴のバトルを見せたJG1クラスは、津川信次が開幕2連勝し、一歩リードした。





に乗り換えることが多かった西原は、今季、GRヤリスの投入を自ら語っていたが、序盤戦は扱い慣れたインプレッサで新生クラスに臨んだ。  
この2連敗を機に思い切ってGRヤリスへのスイッチも検討の視野に入ってくるのか、それとも現状のまま、インプレッサを全日本最強最速のマシンに仕上げ直してくるのか、西原の動向には注目が集まりそうだ。

第1戦もてぎ南 / 1.2. JG4クラスは若林隼人が、2016年にチャンピオンを獲得したCR-Xを再び操り、優勝を決めた。3. その若林の弟、JG3クラスの若林拳人も2WD最速のタイムをマークして優勝。4.8. JG6は昨年、活動を休止したユウ (8.写真右) が昨年から乗り換えたロードスター RFで復帰。見事にその初戦を制した。5.9. 今年もアバルト124スパイダー対決が注目されるJG7は小侯洋平が王者、山野哲也 (9.)を下し、昨年同様、シーズン初戦をものにした。6. チャンピオン経験者が居並ぶJG8の初戦は昨年の王者、斉藤邦夫が貫禄の1勝を挙げた。7.10. JG2はチャンプ候補の一人、広瀬献がSA/SAX勢を抑えて優勝を果たす。11. JG5では若手の奥井優のドライブによりGRヤリスが全日本初優勝を達成。12. 注目のJG1クラス初戦は (左から) 菱井将文、津川信次、西原正樹のオーダーとなった。13.14. 2WDのAT、CVT車両を対象とする新設のJG10クラスは近畿の織田拓也が優勝。

第3戦TSタカタ (シリーズ2戦目) / 15. JG6クラスは86の西野洋平が2本ともベストタイムを奪って優勝。16. JG3の若林拳人はライバルを寄せ付けず、開幕2連勝。17. JG1クラスは津川信次が連勝。18. 併催の箱Dクラスは、全日本でランエゴマイスターとして知られた川崎一晃が優勝。19. JG10では織田拓也スィフトが連勝を決めた。20.22. JG5はベテラン茅野成樹が若手の奥井を抑えて今季初優勝。21. JG7は山野哲也が開幕戦のリベンジを果たし、星を五分に戻した。23. JG2は昨年のSA3王者久保真吾が、連勝を狙った広瀬2000を下した。24. JG4はV2を狙う小武拓矢が快勝し今季初優勝。25. JG8では昨年も速さを見せた箕輪雄介が僅差の首位争いを制した。





2021年 JAF全日本ダートトライアル選手権 第2戦 RASCAL SPRING TRIAL IN KYUSHU

1 2 3 4 5



第2戦恋の浦 / 1.2. 今季、話題のクラスとなりそうなJD11クラスは、寺田伸が10年ぶりの全日本優勝を飾った。3. JD9は昨年のシリーズ4位、濱口雅昭が地元の一戦を制した。4. JD6でも悲願のタイトルを狙う岸山信之が地元開催の一戦でしっかり結果を残した。5. JD7は昨年のチャンプ、山崎利博がライバルを圧するタイムで快勝。6. JD8は開幕戦を制した谷尚樹がその勢いを持ち込んで連勝を決めた。7. JD4は名手、北村和浩が2本ともベストタイムを刻む快心の走りで優勝。8. JD2は目黒亮が新たなクラスでの初勝利をゲット。9. JD5は細木智矢が絶対の自信を持つお気に入りのコースを制して開幕2連勝。10. JD3では昨年の恋の浦ラウンドも制した広島の山下貴史のFTOが今年も優勝をさらった。11. JD1は王者、炭山裕夫が全日本復帰以来、なかなか勝てなかった恋の浦でシーズン1勝目を獲得した。

# JDTC

## 序盤3戦は予定通り開催の全日本ダートトライアル 新クラス施行で勢力図が早くも変わる兆し!?

2021年 JAF全日本ダートトライアル選手権第2戦 RASCAL SPRING TRIAL IN KYUSHU  
 開催日: 2021年4月3~4日 開催場所: スピードパーク恋の浦(福岡県福津市)

2021年 JAF全日本ダートトライアル選手権第3戦 DIRT-TRIAL in NASU  
 開催日: 2021年4月24~25日 開催場所: 丸和オートランド那須(栃木県那須塩原市)

3月に京都コスモスパークで開幕した今年の全日本ダートトライアル選手権。広島テクニクステージタカタで10月に開催される最終戦まで全8戦のシリーズが予定されている。

しかしながら、5月に北海道のオートスポーツランドスナガワで開催が予定されていた第4戦は、北海道が緊急事態宣言を発令したことを受けて延期を決定。続く6月の第5戦(サーキットパーク切谷内・青森)、7月の第6戦(モーターランド野沢・長野県)も新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、とりあえず当初日程での開催を取りやめるといった動きが続いている。

ただ、いずれも4月に組み込まれていた第2戦スピードパーク恋の浦、第3戦丸和オートランド那須は開催され、シリーズ序盤戦は無事消化した形となっている。現状は、コロナ禍により、約3か月のインターバルを余儀なくされているという状態だ。

さて今年の全日本ダートトライアルの話題の一つは、全日本ジムカーナ選手権同様、AT車及びCVT車といった、AT限定免許で運転できる車両を対象としたクラスが、2WD/4WDの駆動方式別

に2クラス設定されたことだろう。すでに全日本ジムカーナでは2WD車両対象のJG10クラスが開幕戦からエントリーを集め、2戦連続で成立している。

一方、全日本ダートトライアルでは、同じく2WD車両対象のJD11クラスが開幕戦コスモスではアクア1台の参加に留まったものの、第2戦から2戦連続で5台以上の参加があり、クラス成立を果たしている。

優勝したのは2戦とも同じスバルBRZのAT車両で、この車両でダブルエントリーした寺田伸と小関高幸が星を分け合った。寺田は全日本2勝目を獲得。一貫してスバル車乗り継ぎ、これぞダートラというアグレッシブなドライビングを見せてきた小関は、意外にも今回が全日本初優勝となった。

改造車部門が再編成されて大きく勢力図が動いた全日本ジムカーナに対して、全日本ダートトライアルには大きな再編はなし。そのSA/SAX、SC車両のクラスでは、全日本ダートトライアルの明日を背負う若手ドライバー達がこの序盤戦で見事なスタートダッシュを決めた。

その一人はJD5クラスの細木智矢。昨年までは宿命のライバルとも言える

宝田ケンシローと、PN2クラスで覇を競ってきたが、今年は、GRヤリスに乗り換えた宝田と袂を分かち、ZC33SスイフトスポーツをSA車両に仕立て直して新たな挑戦を始めた。

細木は開幕戦丸和で早々にそのスピードを見せつけてクラス初優勝を飾ると、過去4連勝中と絶対の自信を持つ第2戦恋の浦でも2番手を1.5秒差であっさり2連勝を決めた。だが第3戦丸和では、このコースを知り尽くす小山健一のEK9シビックが立ちはだかった。

ヒート1こそベテラン小山にコンマ5秒落ちの3番手で食らいついた細木だったが、ヒート2では大きく離され、開幕3連勝はならず。小山は2番手を1.6秒も突き離す走りで2WDベストタイムを

奪い、衰えぬスピードを見せつけた。細木は今季初黒星とは言え、タイトルレースでは2番手に20ポイント以上の大量リードを築いている。

またもう一人は、今年からJD2クラスに移った目黒亮だ。これまではDクラスを戦っていたが、今年はSC車両の新天地で初のチャンピオンを狙う。開幕戦コスモスこそ、公開練習で速さを見せながらも決勝では4位に留まったが、第2戦、第3戦とも2番手にほぼ2秒の差をつけて圧勝し、Dクラスで揉まれた速さを披露した。再開後の目黒の速さにも注目したい。

そしてその目黒が抜けたDクラスは今年からJD1クラスへと名称変更となったが、異次元バトルはさらなるヒートアップを見せている。

2021年JAF全日本ダートトライアル選手権カレンダー(5月末現在の予定)

大会	開催日	競技会名称	開催場所
第1戦	3月13~14日	FORTEC CUP 2021 in KYOTO	京都コスモスパーク(京都府)
第2戦	4月3~4日	RASCAL SPRING TRIAL IN KYUSHU	スピードパーク恋の浦(福岡県)
第3戦	4月24~25日	DIRT-TRIAL in NASU	丸和オートランド那須(栃木県)
第4戦	5月29~30日*	北海道ダートスペシャル in スナガワ	オートスポーツランド スナガワダートトライアルコース(北海道)
第5戦	6月19~20日*	2021年東北ダートトライアル IN KIRIYANAI	サーキットパーク 切谷内(青森県)
第6戦	7月10~11日*	NOZAWA ダートトライアル	モーターランド野沢(長野県)
第7戦	9月4~5日	スーパードライアル in 今庄	オートパーク今庄(福井県)
第8戦	10月9~10日	NANO TOPカップダートトライアル in タカタ	テクニクステージ タカタ(広島県)
JAF CUP	11月13~14日	2021年JAFカップ オールジャパンダートトライアル	輪島市門前モータースポーツ公園(石川県)

\*開催延期。詳細は大会公式サイト参照。

宝田、細木のトップ2が抜けたJD8クラスは本命不在の戦いになると見られたが、近畿出身の谷尚樹が開幕戦に続いて、第2戦、第3戦も連勝。断トツのポイントリーダーに躍り出た。



第2戦恋の浦は昨年のチャンピオン、炭山裕矢が今季初優勝。そして第3戦では谷田川敏幸が地元で、約2年ぶりとなる勝利を挙げた。昨年は屈辱の未勝

利に終わり、ランキングも3位に沈んだDクラスの絶対王者・谷田川の復調で、このクラスのタイトルの行方はまったく混沌としたものになってきた。

第3戦丸和 / 12.JD11はBRZ ATが2連勝。今回は小関高幸が優勝をさらった。13.JD9は川島靖史が、同じ丸和で開催された2019年第7戦以来となる勝利を挙げた。14.JD7ではクラスファーストゼッケンだった齊藤孝太が第2ヒートで叩き出したベストタイムを守り切って全日本初優勝と大金星。15.参加24台と今回も大激戦区となったJD5は大本命、小山健一が2本ともベストタイムを叩き出した。16.JD4北村和浩は第2ヒートで見事な逆転を決めて開幕3連勝と強さを見せた。17.18.今季も混戦必至のJD1は昨年、未勝利に終わった谷田川敏幸が復活の狼煙を上げた。19.JD2は目黒亮が2連勝。タイトルレースの主導権を握った。20.JD6はシードドライバー同士の三つ巴バトルを制した矢本裕之が今季初勝利。21.JD3は2019王者の坂田一也が第1ヒート5番手からの逆転で今季初優勝。



ノウハウと実績がたっぷり詰まった“JAF登録車両”ってどんなモノ!?

# ベース車両選び

# オススメ!!



三菱自動車ランサー・エボリューションXは、スバルWRX STIと並んで、日本を代表する四輪駆動ターボのモータースポーツベース車両として、FIA世界ラリー選手権(WRC)を始め、各国の地域ラリー選手権などで活躍してきた。もちろん、全日本ラリー選手権や全日本ジムカーナ選手権、全日本ダートトライアル選手権でも、一級の戦闘力を持つマシンとして現在も活躍しており、両車は20年以上に渡って対決の構図を展開してきた。

FIAやJAF公認競技にはベース車両のホモロゲーション制度があり、競技の公平性を担保するために、生産台数を含めた厳密な基準を満たした車両で競い合うことが前提とされてきた。ランサー・エボとインプレッサWRXについては、誕生してからWRCを主戦場としたバトルが繰り返され、そのベース車両は毎年のように改良され、車両公認も更新されてきた。

モータースポーツの勝敗と自動車メーカーによる車両開発がシンクロしていた時代は、ベース車両のポテンシャルを向上させて、グラスルーツモータースポーツで使用するユーザーの満足度を高めながら、公認に必要な生産台数を満たすといった手法が採られてきた。

この20年は、国内モータースポーツでもいわゆる“ホモロゲ・モデル”を選ぶことが勝利への早道だったのだ。

国内では、その制度を簡略化した日本独自の「JAF登録」という制度がある。これは国内ラリーやスピード競技などのベース車両として適した市販車を、自動車メーカーがJAFに登録するもので、多くのカテゴリーではJAF登録車両によりモータースポーツが行われてきた。

JAF登録車両でなくても参加できるクラス(JAFスピードP車両やSA/SAX車両など)もあるが、多くのカテゴリーではベース車両としてJAF登録車両が選ばれており、これまでこれらの車種に特化したドライビングやセッティングノウハウが構築されてきている。

同時に、アフターパーツもこれらの車種を軸とした商品開発がなされることも多いため、勝負の世界では、ベース車両にはJAF登録車両を選ぶことが現実的な選択とされてきた。

もちろん、どんな車種にも“最初”があるわけで、実績のないクルマに対して、多くの先人達がトライ&エラーを繰り返してあらゆるノウハウを蓄積した結果として現在がある。自分が好きな車種でスポーツするのも、もちろん正解ではあるが、高い領域になればなるほど僅差の勝負になるものだ。大きなアドバンテージを得られる可能性が限定的であるならば、ノウハウが豊富なJAF登録車両で最初から挑むのも一つの“戦略”だと言えるだろう。



ジムカーナでは、GA2シティと共にジムカーナ向きな名車とされたEF8 CR-X。現在でも一級の戦闘力を持ち、未だ多くの選手により愛好されている。輸入車にもJAF登録車両があり、エルシーアイが登録した1117エキシージは、先人たちの努力によりノウハウが蓄積され、全日本ジムカーナ常勝マシンとして君臨した過去もある。

# Rally Gymkhana Dirt-Trial

## 全日本ジムカーナ／ダートトライアルに新クラス誕生！ JAFスピードP車両も出られるAT/CVT車がアツい!!

2021年の全日本ジムカーナ選手権と全日本ダートトライアル選手権には、新たにAT車両やCVT車両を対象としたクラスが創設

され、全日本ジムカーナには2WDがJG10、4WDがJG9クラス、全日本ダートトライアルには2WDがJD11、4WDがJD10クラスが誕生した。その諸戦となった全日本ダートトライアル開幕戦ではJAF登録車両でハイブリッド車両のNHP10アクアが参戦。そして、全日本ジムカーナ開幕戦には、ベテランの角岡隆志選手が何とボルシェ・ケイマンを持ち込んだ。この車両にはJAF登録は取得されていないが、このクラスにはJAFスピードP車両(JAF登録車両でなくとも良い)での参戦が可能となっている。このP車両はクラッチやブレーキパッド、タイヤ&ホイール程度の改造しかできないが、全日本ジムカーナに限っては、選手権の統一規則によりJAFスピードPN



ジムカーナのベテランである角岡隆志選手は、慣れたランサー・エボXからボルシェ・ケイマンに乗り換えて全日本ジムカーナJG10クラスに参戦。JAFスピードP車両となる。

2021年から新設された全日本ジムカーナJG10クラスには、ケイマンの他、ZC33Sスイフトスポーツの6速AT車やLA400Kコペン、AWCZPポロGTIなども参戦している。



ジムカーナ同様に全日本ダートトライアルにも2021年からAT/CVTクラスが設定され、二輪駆動車を対象としたJD11クラスには、NHP10アクアや6速ATのZC6 BRZが参戦している。

車両と同程度の改造が許されることになったため、ある程度の戦闘力確保も狙えるようになった。ジムカーナとダートトライアルで注目の新クラスとして、盛り上がり期待されている。

# JAF登録車両ガイド

## 最旬マシンでBライ競技はじめよう!

ここでは、2020年の段階で950台以上も登録されている「JAF登録車両」のうち、国産の現行モデルを中心に、上位のBライセンス競技で活躍している定番マシンたちを集めた。ラリーやジムカーナ、ダートトライアルは、基本的にはこれらJAF登録車両が活躍しており、一部のクラスではJAF登録がなくても参加できるようになっている。

### TOYOTA

トヨタ自動車は、現状において最も多く現行車種をJAF登録している。Bライセンス競技で大活躍しているGRヤリスやヤリス、86だけでなく、プリウスPHVやアクア、C-HRなどの環境対応車も登録。また、レースやドリフトで大活躍する「GR スーブラ」に加え、スーパーGTやスーパー耐久でおなじみのマークXやクラウンなども登録している。Bライセンス競技ではGRヤリスと

86、ヤリスが多くのカテゴリーやクラスで活躍できるベース車両で、ワンメイクレースのYaris Cupの開幕により、軽量なヤリスの車両制作ノウハウも増えて行きそうだ。水素自動車の開発車両として話題となったカローラスポーツには1.2リッターターボの6速MT車が設定されているが、最新のJAF登録車両は4WDのCVT車なので注意が必要だ。

NHP10 アクア [JT-156]



ZW51 プリウス [JT-162]



ZN6 86 [JT-165]



NGX50/ZYX10 C-HR [JT-166/JT-167]



DB22/DB42/DB82 スーブラ [JT-174/JT-175/JT-176]



MXPA10 ヤリス [JT-179]



MXPA12/GXPA16 GRヤリス [JT-181/JT-182]



NRE214H カローラスポーツ [JT-184]



### SUBARU

スバルは現行車では唯一の国産2リッター4駆ターボ、WRX STIをJAF登録してラリーで大活躍している。86の兄弟車であるBRZも含め、操る楽しみを得られる選択肢が特徴だ。

ZC6 スバル BRZ [JF-163/JF-165]



VAB スバル WRX STI [JF-164/JF-166]



### MAZDA

マツダは「モータースポーツベース車」を設定しており、ND5RCロードスターには「NR-A」、DJ5FSデミオには「15MB」という専用グレードがある。ロードスターはロードスター RFを含めてジムカーナで愛好されており、デミオ/Mazda2についてはダートトライアルで活躍しており、全日本ダートトライアルでは優勝実績があるマシンだ。

ND5RC マツダロードスター [JY-155/JY-158]



ND5RC マツダロードスター NR-A



NDERC マツダロードスター RF [JY-157/JY-159]



DJLFS/DJ5FS マツダ Mazda 2 [JY-161/JY-162]



### SUZUKI

ZC33S スイフトスポーツはカテゴリー問わずタイトル争いに絡むマシンで、全日本ジムカーナでは6速AT車も活躍。HA36S アルトワークスは規則の影響で活躍の場が少ない状況だ。

HA36S アルトワークス [JS-055]



ZC33S スイフトスポーツ [JS-056]



### NISSAN

日産自動車はグランドツーリングからコンパクトカーまで幅広い車種をJAF登録する。Z34 フェアレディZは全日本ジムカーナの優勝実績があり、話題のe-POWER車もHE12型ノートのNISMO SがJAF登録されて全日本ラリーで優勝を飾っている。R35 GT-Rは全日本ジムカーナに活躍の場(JG9クラスなど)が設定され、今後の参戦が期待されている。

R35 GT-R/R35 改日産 GT-R NISMO [JN-263/JN-274]



Z34 フェアレディ Z [JN-264]



K13 日産 マーチ/K13 改日産 マーチ NISMO S [JN-268/JN-269]



HE12 ノート e-POWER NISMO S [JN-275]



### HONDA

本田技研工業は、現行車においてはフラッグシップのNSXから軽自動車のN-ONEまでをJAF登録。FK8型CIVIC TYPE Rは限定発売、S660は2022年に生産終了ということで購入機会は限られるが、高性能が約束されているだけに注目度は高い。新設された6速MT車を含めたJG3型N-ONEがJAF登録されているところもポイントだ。

JW5 S660 [JH-121]



NC1 NSX [JH-122]



FK8 CIVIC TYPE R [JH-124]



JG3 N-ONE [JH-125]





全日本ジムカーナ開幕戦を制した奥井優介は、GRヤリスに全日本初の1勝をもたらした。



# GRヤリス

今季最も注目されるJAF登録車両、トヨタGRヤリスが全日本選手権で大活躍

昨年後半から、Bライ競技の全日本選手権にも参戦を開始し、注目を集めているトヨタGRヤリス。全日本ジムカーナ選手権では開幕戦で全日本初優勝を達成するなど、その高いポテンシャルを発揮し始めている。

## 全日本ジムカーナを席卷中!

**今**季、Bライセンスモータースポーツ界で最も話題を集めている一台がトヨタGRヤリスだ。昨秋、まず全日本ジムカーナ選手権にデビューを果たすと、全日本ラリー選手権最終戦にも登場。そして今年、全日本ダートトライアル選手権でも開幕戦から数台が参戦し、各カテゴリーで本格参戦を始めた。

GRヤリスの全日本初優勝は今年に持ち越されたため、どのカテゴリーで誰が、この快挙を成し遂げるかが注目されたが、それは3月に行われた全日本ジムカーナ開幕戦であっさり達成された。ドライバーは昨年までランサー・エボリューションをドライブしていた奥井優介で、奥井自身も全日本初優勝を達成した。

奥井は昨年までは父親の毅とWエントリーしていたため、GRヤリスは今回が初ドライブ。まだ全日本通算12戦目の若手注目株は、「シーズンオフの間にテストを繰り返して、GRヤリスを理解できたことがこの勝利に繋がりました」と語り、表彰式では父子二人三脚でマシンの熟成に努めた毅とともに感涙にむせんだ。

奥井が参戦するJG5クラスは、開幕戦からGRヤリスが数多くエントリー。朝山崇が2位に入り、昨年からGRヤリスに乗る片山誠司が3位を獲得して表彰台を独占した。GRヤリス勢の進撃は続く第3戦でも止まらず、今度は全日本ジムカーナを代表するトップドライバーの茅野成樹が優勝。奥井は茅野に逆転を許すも、2位を



1. 第3戦TSタカタは今季からGRヤリスにスイッチした茅野成樹が優勝。2. 折茂紀彦とWエントリーする朝山崇は開幕から2戦連続表彰台を獲得。3. 改造車が混走するJG1クラスでは大橋渡が孤軍奮闘中だ。4. 全日本ダートラJD6クラスでは宝田ケンシローが第2戦恋の浦で4位に喰い込んだ。

確保し、ポイントリーダーに立った。一方、全日本ラリーでは、勝田範彦、奴田原文雄という過去、何度も王座を射止めてきた強豪が今年からGRヤリスにスイッチした。今年の全日本ラリーは、WRC(世界ラリー選手権)で活躍する“純ラリーマシン”、シュコダ・ファビアR5が2台参戦。『黒船来襲』に例えられるスピードを見せつけ、国産車勢は苦戦を強いられているが、その中であって、勝田範彦、奴田原はしばしばベストタイムを奪う速さを披露。第5戦ラリー丹後では勝田範彦がファビア勢に割って入る2位でゴールした。中盤戦での戦いが注目される。

### FFヤリスは全日本ラリーで連勝街道を突っ走る!

トヨタ・ヤリスの2WDは昨年、全日本ラリー選手権最終戦で小濱勇希がJN5クラス、水原亜利沙(12.)がJN6クラスで優勝を飾った。その速さは今年に入ってさらに加速し、JN6では吉原将大(9.)が開幕3連勝。JN5でも内藤学武(10.)がラリー丹後で快勝を飾り、王者、天野智之(11.)はCVTのヤリスRSにスイッチした。シリーズ後半戦はFFヤリスが完全にシリーズの主役に躍り出ることになりそうだ。



9. 小濱勇希がJN5クラスで優勝。10. 水原亜利沙がJN6クラスで優勝。11. 吉原将大が開幕3連勝。12. 内藤学武がラリー丹後で快勝。



**全日本ラリーでは“黒船”をR車両相手にベスト奪取と健闘!**  
5.6. デビュー戦となった新城ラリーではリタイアするも勝田範彦は走行を重ねるごとに速さを身に付けており、ラリー丹後では2位に入った。7.8. 奴田原文雄はデビュー戦となった唐津のLEG1で首位に立つなど、GRヤリスのポテンシャルの高さを垣間見せた。グラベルラリーが続く夏場の3連戦でのスピードが注目される。



お手軽  
モータースポーツ



# オートテストを 1日疑似体験!

専用のモータースポーツ装備や、  
ライセンスがなくとも参加できる  
モータースポーツ競技として、  
全国各地で人気上昇中のオートテスト。  
今回は、その競技会の流れを  
分かりやすく解説してみよう。

**オ**ートテストは英国発祥のモータースポーツで日本には2015年に導入された。手軽にモータースポーツを体験できるのがオートテストのコンセプト。なのでレーシングスーツやヘルメットなどの装備は必要なし。モータースポーツライセンスがなくとも大丈夫だ。街乗りのマイカーでも参加でき、かつ優勝のチャンスもあり。とかく「敷居が高い」と言われるモータースポーツのイメージを覆してくれるのがオートテストなのだ。  
オートテストは、まず最大でも200m×200mというコンパクトなスペースの中で

行うこと、というルールがある。日本でもこれまで道の駅や商業施設などの駐車場、といった気軽に立ち寄れる場所で開催されてきた。競技に関する規則では、最低1回、リバースギヤを使うセクションを設定すること、決められている。つまり『ガレージ(車庫入れ)』が勝敗を大きく左右するのだ。  
またパイロンを置く間隔も最大50m以内とすることやゴール手前25m以内に必ずパイロンを置くこと等のルールもあるため、パワーのあるクルマが勝つということもない。速さよりも運転の正確さを競うの

がオートテストなのだ。  
走行タイムがポイントとして換算されるのもオートテストの特長。ガレージが不十分だったり、パイロンに触るとペナルティポイントが加算される形になっており、走行タイムとペナルティの合計ポイントが少ない人ほど上の順位になっていくという形になっている。  
今回はゴールデンウィークに岩手県一関市で開催された「2021年JAFオートテストチャレンジin岩手」にお邪魔してみた。ジムカーナの要素も入れつつ、『ガレージ』セクションも、しっかり工夫された、走り応えのあるオートテストだ。  
なお、全国各地のオートテストの開催情

報はJAFモータースポーツホームページ内にあるオートテスト特設サイトに載っているの、ぜひチェックしてみよう。  
**JAFモータースポーツホームページ**  
<http://jaf-sports.jp/>



会場は一関市総合体育館(ユードーム)の駐車場。午後からは予報通りの雨模様となったが、成績にはそれほど影響しなかった。

## オートテスト競技会の1日の流れを紹介します!

**受付**

まず会場に入ったら、決められた時間内に受付を済ませ、資料やゼッケンなどをもらおう。今回の大会は当日受付もOK。20名ほどが当日参加だった。

**慣熟歩行**

決勝走行が始まる前には、受付で渡されたコース図を見ながらコースの下見を行う『慣熟歩行』の時間があるので、そこでコースをチェックしよう。

**決勝ヒート1**

決勝ヒートは通例、2回行う形になっている。今回の大会ではタイムは小数点以下2ケタまで計測するが、ポイントは小数点以下切り捨てとなった(\*)。

※例えば45.15秒で走った人と、45.89秒で走った人は、小数点以下は切り捨てになるので、ペナルティがなければ、ポイントは同じ45点が与えられた。

**決勝ヒート2**

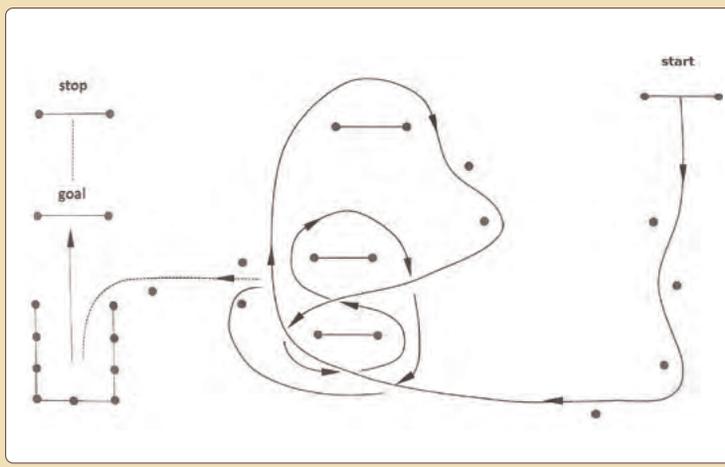
今回は同秒台で走った人は同ポイントになるが、ペナルティの有無や、セカンドベストのポイント差等で順位が決定された。2本ともしっかりミスなく走るのが大切だ。

**表彰式**

80台近い参加数となった今回は、オートテストの参加経験や、AT/MT車等で4クラスに分かれて行われ、各クラスで上位入賞した参加者に記念品が渡された。



## オートテストの攻略法教えます!



今回のオートテストを主催したのは岩手のJAF加盟クラブであるプレストモータースポーツ。JAF東北ジムカーナ選手権に参加する有力ドライバーも多く所属する、ジムカーナ色の強いクラブとあって、コースの前半はパイロンスラロームや、8の字スラロームなど、ジムカーナテクニックが体験できる設定が盛り込まれた(ただしサイドブレーキターンは規則により禁止)。ゴール前には、ラインまたぎとガレージの複合セクションが設定されたが(点線の部分がリバースギヤを使う部分)、車庫入れを邪魔するかのようガレージの前に1本パイロンが置かれている。今回は、このパイロンをなるべく速度を落とさずにスムーズにかわすラインでガレージに入れるかがポイント。ガレージにバックで入れるラインを考えて、その前のラインまたぎをどう工夫するかが、勝負所になった。

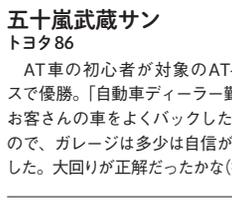
ガレージでは車両全体をパイロンで区切られたスペースの中に一旦、入れなければならないので注意したい。それができないとイエローフラッグが振られて今大会のペナルティの対象になる。前半区間は、ジムカーナ気分が味わえるセクションだった。



## 優勝したドライバーさんにインタビュー!



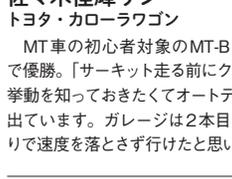
**小野寺大輔サン**  
三菱ミラージュ  
AT車の競技経験者が対象のAT-Aクラスで優勝。「今日はコースを覚えやすい設定でしたね。ガレージはチャレンジングでしたが、後から思うとちょっとタイトなラインになってしまいました」



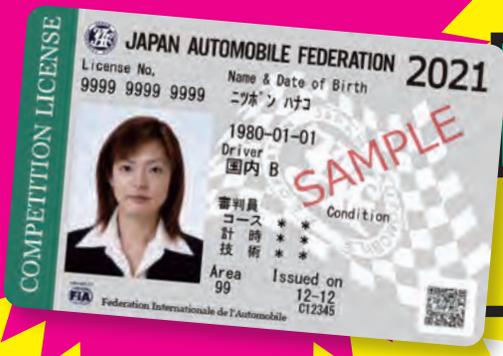
**五十嵐武蔵サン**  
トヨタ86  
AT車の初心者対象のAT-Bクラスで優勝。「自動車ディーラー勤務で、お客様の車をよくバックしたりするので、ガレージは多少は自信がありました。大回りが正解だったかな(笑)」



**村上清隆サン**  
スズキ・アルトワークス  
MT車の競技経験者が集うMT-Aクラスで優勝。「30年前まではジムカーナやってました。僕は今日は8の字がポイントでしたね。ラインまたぎはガレージに入れやすいように斜めに停めました」



**佐々木佳輝サン**  
トヨタ・カローラワゴン  
MT車の初心者対象のMT-Bクラスで優勝。「サーキット走る前にクルマの挙動を知っておきたくてオートテストに出ています。ガレージは2本目は大回りで速度を落とさず行けたと思います」



# JAF・Bライセンスを取得して モータースポーツにデビューしよう!

ラリー、ジムカーナ、ダートトライアルなど、モータースポーツを始めるには「Bライセンス」が必要だ。このライセンスはカンタンに取得できるので、競技に参加してみたい人はぜひ挑戦してみたい。

## Bライ取得の第一歩を踏み出そう!

Bライセンスはラリー、ジムカーナ、ダートトライアルなどのJAF公認競技会に参加するために必要なライセンスで、JAFが発給を行っている。Bライセンス講習会は全国各地で開催されている。これからモータースポーツを始めたいという人は、まず取得に向けて受講してみよう。

## 誰でもカンタンな講習会とは?

Bライセンス講習会というのは約2時間ほどの講習を受けるだけで、競技ライセンス取得の権利を得られるというカンタンなものなので、難しく考える必要はない。受講資格は普通自動車運転免許証を持っているJAF個人会員であることが条件だが、講習会当日にJAF会員になることも可能なので、JAF会員ではない人も安心して講習会に参加できる。なおJAF個人会員の入会費用は入会金¥2,000円+年会費¥4,000円となっている。

## 週末のほか平日夜でも開催している

講習会が開催される日程については、JAF個人会員に届く機関誌「JAFメイト」に掲載されている。その他、JAFホームページ



JAFホームページ「ご当地情報」等でモータースポーツ講習会の日程が確認できる。



講習会では競技に役立つ規則等を、約2時間でレクチャーしてくれる。



分かりやすいテキスト等を用いてルールをしっかりと学ぶことができる。

ジの「ご当地情報」等にも掲載されているので、チェックしてみよう! この講習会は大半が土・日・祝日に行われているが、中には平日夜に開催されるケースもある。また競技会の見学会とセットになった講習会をJAF地方支部が企画して行われることもあるので、モータースポーツの雰囲気を感じながら受講してみるのもひとつの方法だ。

## モータースポーツの基礎を学ぼう!

さて気になる講習会の内容は、モータースポーツの競技規則、マナーやルール等を、テキストや映像でレクチャーするもので、実技や試験があるわけではない。ただし、赤旗や黄旗の意味などは競技参加時には必ず知っておかなければならないものなので、しっかり聞いて覚えておこう。なお講習会の費用は受講料が¥4,100円以内、教材費が¥1,000円以内となっている。

## ライセンスは2~3週間で届く

講習会が終わると、最後に「ライセンス交付申請書」がもらえるので、必要事項を記入して写真と申請料¥3,100円を添えて、30日以内に最寄りのJAF支部に申請すればOKだ。JAF支部に行けないという人は、講習会の主催者が代理で申請してくれるケースもある(別途、手数料が必要な場合あり)。そして申請後、約2~3週間でライセンスが手元に届く。写真が入った自分だけのライセンスだ。

## 競技情報はホームページでチェック

競技会の日程、モータースポーツの各種情報についてはJAFモータースポーツホームページに掲載されているので、ぜひ活用してみたい。きっとキミのモータースポーツライフを充実したものにしてくれるはずだ。

## Bライ競技のヒエラルキーとは?



## JMRCのホームページを活用しよう!

競技会に参加する際に頼りになるのがJMRC(JAF登録クラブ地域協議会)のホームページだ。初心者・中級者が対象の競技会情報等も掲載されているので、自分のスキルに合った大会を探し出すことができる。各シリーズの日程や規則、JAF登録クラブ・団体への連絡先も網羅されているので、Bライセンスを取得したらブックマークに登録しておくとも良いかも!

JMRC北海道	<a href="http://jmrc-hokkaido.org/">http://jmrc-hokkaido.org/</a>
JMRC東北	<a href="http://jmrctouhoku.com/">http://jmrctouhoku.com/</a>
JMRC関東	<a href="http://www.jmrc-kanto.org/">http://www.jmrc-kanto.org/</a>
JMRC中部	<a href="http://www.jmrc-chubu.jp/">http://www.jmrc-chubu.jp/</a>
JMRC近畿	<a href="http://www.jmrc-kinki.net/">http://www.jmrc-kinki.net/</a>
JMRC中国	<a href="http://jmrc-chugoku.org/">http://jmrc-chugoku.org/</a>
JMRC四国	<a href="http://jmrc-shikoku.gr.jp/">http://jmrc-shikoku.gr.jp/</a>
JMRC九州	<a href="http://www.jmrc-kyushu.gr.jp/">http://www.jmrc-kyushu.gr.jp/</a>

# 全国JAF公認Bライセンス競技コース一覧

2021年1月1日現在

## ジムカーナコース

- オートスポーツランドスナガワ ジムカーナコース (北海道・砂川市)
- 新千歳モーターランド・アクティブ・セーフティ・パーク (北海道・千歳市)
- 十勝スピードウェイ ジュニアコース/ジムカーナコース (北海道・更別村)
- 岩木山スキー場駐車場 (青森・弘前市)
- モーターランドSP (青森・南部町)
- スポーツランドSUGO 国際西コース (宮城・村田町)
- 新協和カートランド (秋田・大仙市)
- エビスサーキット ジムカーナコース/西コース (福島・二本松市)
- 茨城中央サーキット (茨城・石岡市)
- 筑波サーキット コース1000/ジムカーナ場 (茨城・下妻市)
- ツインリンクもてぎ マルチコース/南コース (栃木・茂木町)
- 日光サーキット (ドリフト競技に限定) (栃木・宇都宮市)
- GR Garage 宇都宮つくるま工房 つくるまサーキット那須 (栃木・那須塩原市)
- 宝台樹スキー場・駐車場 (群馬・みなかみ町)
- GOLDEX本庄モーターパーク (埼玉・本庄市)
- 浅間台スポーツランド (千葉・香取市)
- R-Spec Kakizaki (新潟・上越市)
- スピードパーク新潟 (新潟・胎内市)
- さくらモータースポーツランド (長野・飯田市)
- イオックスアローサスポーツランド (富山・南砺市)
- 大日スポーツランド (石川・白山市)

- 福田自動車教習所 (静岡・磐田市)
- 富士スピードウェイ ジムカーナコース/ショートサーキット (静岡・小山町)
- キョウセイドライバード (愛知・岡崎市)
- 幸田サーキットYRP桐山 (愛知・岡崎市)
- スパ西浦モーターパーク (愛知・蒲郡市)
- 美浜サーキットクニモト (愛知・美浜町)
- 鈴鹿サーキット 国際南コース (三重・鈴鹿市)
- 奥伊吹モーターパーク (滋賀・米原市)
- 舞洲スポーツアイランド (大阪・大阪市)
- 姫路セントラルパーク 第5駐車場 (兵庫・姫路市)
- 名阪スポーツランドCコース/Eコース (奈良・山添村)
- 備北サーキット (岡山・新見市)
- なださきレークサイドパーク (岡山・岡山市)
- スポーツランドTAMADA (広島・広島市)
- TSタカタサーキット (広島・安芸高田市)
- 徳島カートランド (徳島・吉野川市)
- 瀬戸内海サーキット (愛媛・西条市)
- ハイランドパークみかわ ジムカーナコース (愛媛・久万高原町)
- モーターランドたちかわ (高知・大豊町)
- スピードパーク恋の浦 (福岡・福津市)
- HSR九州ドリームコース (熊本・大津町)
- オートボリス レイクサイドサーキットコース (大分・日田市)

## ダートトライアルコース

- オートスポーツランドスナガワ ダートトライアルコース (北海道・砂川市)
- 糠平湖氷上コース (北海道・上士幌町)
- イーストジャパンオフロードスタジアム (北海道・士幌町)
- サーキットパーク切谷内 (青森・五戸町)
- エビスサーキット 西コース (福島・二本松市)
- 丸和オートランド那須 (栃木・那須塩原市)
- NATSダートコース (千葉・成田市)
- モーターランド野沢 (オートクロスコースとしても公認) (長野・野沢温泉村)
- 輪島市門前モータースポーツ公園 (石川・輪島市)
- オートパーク今庄 (福井・南越前町)
- 池の平ワンダーランド (愛知・豊田市)
- 京都コスモスパーク (京都・京都市)
- テクニクスステージカクタ (ツイントライアル可) (広島・安芸高田市)
- 楠ハイランドパーク (山口・宇部市)
- 香川スポーツランド (香川・さぬき市)
- スピードパーク恋の浦 (福岡・福津市)

本誌の記事内容は2021年5月末までの情報を元にしております。社会情勢によって掲載した情報内容が変更される場合がございます。予めご了承ください。

CLUB Bは WEBでも見れます!

本誌「CLUB B」Vol.36はWEBでもご覧になれます。下記のホームページをご参照ください。 JAFメディアワークスホームページ <https://www.jafmw.co.jp/>

CLUB B Vol.36 Bライセンスモータースポーツ 応援マガジン

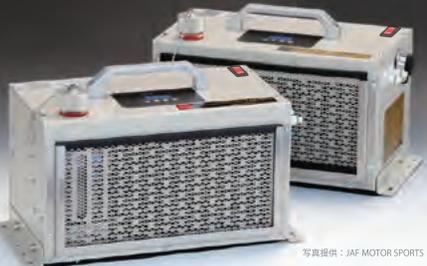
発行所 株式会社JAFメディアワークス 〒105-0012 東京都港区芝大門1-9-9-10F 発行人 西岡 敬明 編集人 佐藤 均

デザイン 鎌田 偉 編集 株式会社JAFメディアワークス ☎03-5470-1712 本誌掲載の記事や写真の無断複写・複製・転載を禁じます。



# 冷却を極める “HPI クールシリーズ”

## compact chiller system DC-STD



写真提供：JAF MOTOR SPORTS

## 冷却水自動循環チラーシステム

チラーとは、水の温度を調整する事により設定した温度を一定に保つ事が可能なシステムを言います。可能な限りコンパクト化を目標に設計試作を行い小型化に成功致しました。冷却性能も競技車両からの弊社オリジナルノウハウを応用し、空冷式ファンで冷却コンデンサーを冷やし循環する循環水を冷却致します。また各電源入力にも対応し、AC100V、AC200V電源やDC12V、DC24V、DC48Vまでの車両側バッテリー電源にも対応し安定した温度の冷却水を常に循環します。●競技車両などに車内搭載しクールシートやクールベストなどを循環冷却行うことが出来ます。●重機、フォークリフトなどの建設機械車両にもお使いいただけます。●医療現場や介護施設など幅広いニーズにお応えできるオプション品を設定。



●COOL SEAT spec-R&C CHILLER使用時の温度変化  
写真提供：JAF MOTOR SPORTS



●BOX type 使用例



●COOL VEST & BOTTLE type 使用例

## クールシート COOL SEAT SPEC-F

フォークリフト、建設重機、車いす等の小型椅子に合わせた spec-F1 スペックFの“F”はフォークリフト、またフリーの頭文字で、その名の通り様々なシーンに対応できるよう進化したアイテムです。フォークリフト、建設重機や農作業機の椅子に合うように、サイズを見直しました。背面と座面がセパレートで、両面ともベルトで固定するだけなので、車いすやベビーカー等にも、ご使用いただけます。



フォークリフトにクールシート SPEC-F& チラー装着イメージ

## クールシート COOL SEAT SPEC-R

バックシートに合わせた幅広タイプ。6点ベルト用の通し穴を追加。各シートに合わせやすいように背面、座面をセパレート化。クールシート裏には滑り止めを追加。レースでも使用できるように布地には防炎処理加工。ハーネスホールにひっかけられるように紐を追加し、ずり落ちを防止。冷感あげる為にホースのレイアウト、形状を改良しました。

## 水冷式冷却ベスト COOL VEST



特許出願中【特願 2017-30658】

体を迅速に冷却するために1着あたり約16mものシリコンチューブを的確に配置。JAXA(宇宙研究開発機構)が開発した特殊なベストです。ホールガーメント製法という特殊縫製により縫い目(ファスナー部を除く)がなく伸縮性に優れ、非常に高いフィッティング性と着心地を実現しました。

## ボトルタイプ ボックスタイプ

500~750mlの凍結したペットボトルを冷却とし、冷水をベスト内に循環させ人体を冷却します。溶けた飲料水はそのまま飲むことが出来、新たな凍結ペットボトルはコンビニ等で購入、交換する事が出来ます。特注リチウムバッテリー(充電器付)で動作可能なポータブルタイプですので、持ち運びやすく各酷暑現場やレジャーシーンなどで多用途に使用することが出来ます。

血清や臓器などを運搬するのに使用されている特殊なクーラーボックスを採用。従来のクーラーボックスと比べてコンパクトながらも長時間の保冷を実現し、さらに約5~10kgの軽量化が可能。接続部は1ボタン2ラインのワンタッチアタッチメントを採用。耐久性の高いブラシレス式モーターポンプを採用(約6000時間)。



## 高機能 立体アイスマスク



冷却効果で年間を通して快適!!  
吸水速乾・優れた通気性・吸汗速乾  
遮熱・UVカット高機能素材!

安心・安全の  
MADE IN JAPAN  
日本製

手洗い  
OK!!



汗や水分を吸収・拡散することによりマスク自体が冷たくなり、ひんやり快適に!  
風が当たると、ひんやり効果さらに倍増!  
オールシーズン快適なアイスマスクで、サーキット観戦を初め、様々なシーンで大活躍!  
水に浸し絞ってご使用いただくと、ムレを防止し涼しさを感じることができます。  
●このマスクは、感染(侵入)を完全に防ぐものではありません。

## クールコア 極冷ウェアシリーズ



COOL CORE 素材で身体を快適冷却  
空調服との相性バッチリ!!



■Tシャツ半袖

デスクワークのインナーウェアにも最適!



■Tシャツ長袖

作業時のインナーウェアとして効果バグン!!



■フェイスマスク

ヘルメット装着時などに頭部を冷却効果を発揮



■アームカバー/親指通し穴あり

運転時の紫外線を防ぎ日焼け止めと冷却効果を発揮

全商品安心の国内生産!!  
表地：ポリエステル 95% ポリウレタン 5%

※素材の機能上一定の冷却効果は期待されていますが、その効果は、季節、周囲環境、利用方法、個人によって異なります。本商品のデザイン、機能、ロゴは氷点下10℃までの冷却効果または体感マイナス10℃の冷却効果を保証するものではありません。ご注意ください。

# www.hpi.co.jp

## HPI CIRCUIT MEETING 2021 in 袖ヶ浦FRW

第6回  
7/18  
sun

第7回  
11/21  
sun

詳しくは  
ホームページまで

入場  
無料



フロントロワブラケット  
キャンパー調整カラー



(別売品)

センターロックピロボール  
アッパーマウント

ノーマルのゴムブッシュアッパーマウントをピロボール化する事で、不要な動きを抑制しシャープかつダイレクトなハンドリングを実現します

ジムカーナターマック競技用

ラリー、ダートトライアル、グラベル競技用

**CUSCO SPORT G** 競技専用部品

- フロント：全長調整式車高調整、リヤ：ネジスペーサー車高調整
- 単筒式大容量ショックアブソーバー
- アッパーマウントレス ●ラム式構造 (フロント)
- 高性能ニードルバルブ式 前・後減衰力24段階調整
- 横G、ブレーキ時のGに威力を発揮する高剛性ナックルブラケット
- フロントロワブラケットキャンパー調整式(キャンパー調整カラー)
- 完全受注製作：購入時に減衰、ストロークの指定可能
- オーバーホール(減衰力、ストローク変更可能)対応
- ※スプリングはキットに含まれません(別売設定)
- ※JAF公認競技Nクラス向けに純正形状アッパーマウントに対応
- ※センターロックピロアッパーマウント(別売)に対応

**CUSCO SPORT TN.R** 24段階減衰力調整

- Sタイヤ(セミスリック)対応
- 本気でタイムを削るための2Way減衰力調整
- 別タンクなしで伸/圧減衰力の独立制御を実現
- 伸側：24段 / 圧側：24段
- 単筒式ショックアブソーバー
- 全長調整式車高調整
- ラム式(倒立式)ショックアブソーバー(フロント)
- ピロアッパーマウント標準装備
- (フロントはセンターロックピロボールアッパーマウント)
- フロントキャンパー調整可能(キャンパー調整カラー)
- CUSCO SPORT「Blue spring」を標準装備

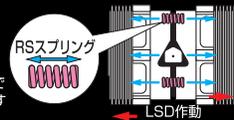
**CUSCO LSD**

1つのLSDで2タイプの作動方式が選べる  
4WD車には... ○1Wayタイプ / 1.5Wayタイプ→フロント(作動タイミングのカム角を選べる2カム方式)  
○1&1.5Wayタイプ / 1.5&2Wayタイプ→リヤ

**type-RS**

低インシャルで作動、高レスポンス、耐久性抜群のtype-RS

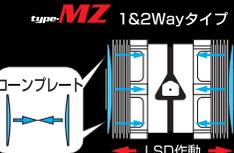
- 低インシャルでパワーロスも少なくローパワー車にもマッチ
- 作動方向とインシャル発生方向が一致しているため、作動も速くアクセルコントロールにもダイレクトに反応
- 異音(チャタリングと呼ばれるバキバキ音)の発生を低減



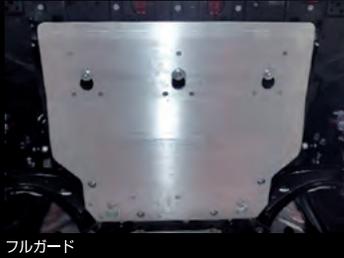
**type-MZ**

アクセルワークにリニアに反応するtype-MZ

- 高いコントロール性を誇るオーソドックスなコンプレート方式
- チューンドカーのハイパワーにも対応する高耐久性を実現



☆LSDの効きの強さを注文時に変更することができます。ご購入の際にご相談ください。



フルガード



フロアガード



タンクガード



ピロボールブッシュ各種  
税込価格¥25,300(左右1セット)

**COMPETITION PARTS**

製品名	タイプ	税込価格
<b>車高調整サスペンションキット</b>		
CUSCO SPORT G (競技専用部品)	ジムカーナ、ターマック競技用	¥261,800
CUSCO SPORT TN.R	ラリー、ダートトライアル、グラベル競技用	¥261,800
CUSCO SPORT TN.R	減衰力24段階調整×2WAY	¥360,800
センターロック・ピロボールアッパーマウント(左右1セット)		¥33,000
<b>ガードシステム</b>		
フルガード(ワンタッチ脱着タイプ)	17S材、板厚5mm	¥110,000
フロアガード	52S材、板厚3mm	¥63,800
タンクガード	52S材、板厚3mm	¥46,200
<b>LSD</b>		
フロント用 Type-RS / MZ	1Way カム角 35° or 45°	¥209,000
	1.5Way カム角 35°/20° or 45°/20°	¥209,000
※ スペック F の設定もありません		
リヤ用 Type-RS / MZ	1Way カム角 45° カム角 45°	¥132,000
	1.5Way カム角 55° / 20°	¥132,000
	1.5Way カム角 55° / 20°	¥132,000
	2Way カム角 55°/55°	¥132,000
<b>ロールケージ</b>		
<b>SAFETY21</b>	2/4名乗車、リヤ4P	¥55,000
	2名乗車、リヤ5P	¥68,200
SAFETY21 ロールケージ	2/4名乗車、ダッシュ貫通 6P	¥90,200
	2名乗車、ダッシュ貫通 7P	¥103,400
	2名乗車、ダッシュ貫通 8P	¥116,600
	2名乗車、ダッシュ貫通 9P	¥127,600
	2名乗車、ダッシュ貫通 10P	¥138,600
		¥385,000
ASN 公認ロールケージ (JAF 登録車両：J.T-182)	メインアーチ：φ45、t=2.6、スチール製	
	フロントケーシング：φ40、t=1.6、クロモリ製	
	メインクロス、Fサイドクロス：φ40、t=1.6、クロモリ製	
	ハーネスバー：φ40、t=2.0、スチール製 その他：φ35、t=1.5、クロモリ製	
トヨタ純正 GR ロールバー用 斜行バー追加キット ※2	TGR ラリーチャレンジE-4クラスに 参戦可能になります	¥44,000
※2：本製品装着対象トヨタ純正 GR ロールバー 品番 619A0-52020 (サイドバー付仕様)		



ASN 公認ロールケージ装着イメージ



ASN 公認ロールケージ装着イメージ



**CUSCO RACING HARNESS**

**4-Point**

ブルー BLUE レッド RED ブラック BLACK

税込価格¥36,080

- 肩ベルト：3inch
- 腰ベルト：3inch
- アイボルト4本付属
- CUSCOロゴ入り
- ファブリック製ワッペン



**BODY & CHASSIS BARS** ボディ補強

オーバーシャフト・ストラットバー (フロント) 装着

オーバーシャフト・ストラットバー (リヤ) 装着

**ストラットバー**

- コーナーリング時や加速時のストラットタワーの変形を抑制しサスペンション本来の性能を発揮
- オーバーシャフト形状の軽量アルミ製、高剛性シャフト採用
- A オーバルシャフトストラットバー (フロント) 税込価格 ¥16,500
- B オーバルシャフトストラットバー (リヤ) 税込価格 ¥16,500

**パワーブレース** ※7月1日よりの価格改定後の価格です。

- ボディやメンバーのねじれや歪みを抑制
- ボディ剛性強化でサスペンション本来の性能を発揮
- 単単ボルトオン装着 ○最低地上高維持設計
- 丈夫なスチール (STKM製) オーバルシャフト (t=1.6mm)
- C フロントメンバーフロント 税込価格 ¥27,500
- D フロントメンバーリヤ 税込価格 ¥27,500
- E シートレールプラス (2個セット) 税込価格 ¥20,900
- F リヤエンド 税込価格 ¥15,400



**6-Point FHR** (6点式 FHRデバイス専用モデル)

FIA APPROVED FIA 8853-2016

ブルー BLUE レッド RED ブラック BLACK

税込価格：¥52,580

- 肩ベルト：2-3inch
- 腰ベルト：3inch
- 股ベルト：2inch
- アイボルト6本付属
- CUSCOロゴ入り
- ラバー製ワッペン



**6-Point**

FIA APPROVED FIA 8853-2016

ブルー BLUE レッド RED ブラック BLACK

税込価格：¥52,580

- 肩ベルト：3inch
- 腰ベルト：3inch
- 股ベルト：2inch
- アイボルト6本付属
- CUSCOロゴ入り
- ラバー製ワッペン

リヤ側装着例

●乗降の際にゴム紐などで各ハーネスを吊り上げる事ができるように「サポートループ」標準装備

●乗降の際にゴム紐などで各ハーネスを吊り上げる事ができるように「サポートループ」標準装備